



ネリーズ通信

第24号 2022年9月



編集発行責任者 社会福祉法人 練馬区社会福祉協議会

ネリーズ紹介No.21

ネリーズは日々の暮らしの中で、近隣の方たちとつながっていくことで、ゆるやかに見守りあい、誰にとっても暮らしやすい地域づくりを目指している地域の皆さんです。

渡邊さんは定年退職後、何かできることはないかと動き出そうとしたときに高次脳機能障害になりました。訓練施設に通われた後の居場所を探しているときにボランティアセンターの職員からハッピーひろばを紹介されました。ハッピーひろばは障がいの有無に関係なく多世代交流に取り組んでいる団体です。渡邊さんは障がい者の居場所づくり勉強会、麻雀教室などのプログラムに参加していましたが、今では障がい者の皆さんが余暇を楽しめる居場所「ハッピーひろば」を中心に、運営スタッフとして活躍されています。今回、相談情報ひろばハッピーひろばで、現在の活動や活動への想いなどを伺いました。

自分のできることを手伝いたい。

はじめはプログラムの参加者でしたが、自分のできるとして何か手助けできることはないかという思いで、現在は運営スタッフとしても関わっています。

障がいがあってもなくても人には得意分野と不得意な分野があるので、与える側と与えられる側という一方向的な関係ではなく、足りない部分は他の人に任せて得意な分野を活かしてやっていければと思っています。

指摘をすることは簡単ですが、実行に移すことが大切だと考え、自ら進んで取り組み潤滑油のような存在になればともっています。

これからも世の中に足を一步踏み出せば、できることがひろがっていくのではないかという思いで出かけ、様々な人とつながっていきたいと思います。

石神井地区

わたなべきよし

渡邊澄さん



高次脳機能障害の当事者の会も運営し、「人に喜んでもらいたい、思いを伝えつなごうとできればいいな」と、自分から情報発信をしていくなど、自分のできることを率先して行っている渡邊さんの優しく温かい想いが伝わってきました。



私の一枚 ～ネリーズかるた～

あかねの会※の
吉田さんが選んだ一枚

障がいも個性の一つです。「障がい者だから～」と特別扱いの「～だから」ではなく、心の底から自然体で接すれば、地域に溶け込み、当たり前前の存在としていられると思います。



た 誰もが“へこんだところ”
“とがったところ”を
持っている

読み札の作者エピソード:

障害は特別なものではありません。誰でもどこかしら“へこんだところ”と“とがったところ”を持っていると思います。

※あかねの会: 練馬区春日町を中心に障がいのある人の仕事や生活の支援、発達障がい児の個別指導等に取り組んでいる団体です

7/27に行ったネリーズ懇談会の様子をお届けします

大泉学園町にある福祉作業所「つくりっこの家」。今回はこちらをお借りして、Aメンバー(すでに障害を持っている人)とCメンバー(まだ障害の無い人)、そしてスタッフの皆さんと共に、交流の時間をもち、感じたことを共有しました。



つくりっこの家
明星さん

知らないことから人は偏見を持ってしまいます。まず知り合うことが大事。つくりっこでは出会うチャンスを工夫し、AメンバーとCメンバーと一緒に働いています。知り合えば『人と人』ということですね。



Aメンバーもつくりっこの家を支えています!

Cメンバーは人間として対等な関係で接してくれる。いないと困ります!

ネリーズの声

こんな風に居場所がある、自分の弱さを知ってくれる場は欠かせないことだと感じました。

地域に開かれた施設だと感じました。ここで聞いた話をぜひ、地域に持ち帰りたいです。



次回は秋ごろを予定しています。それぞれのネリーズが地域で行っていることを共有し、住みやすい地域づくりをいっしょに進めていきましょう。

終了後も、自然に話しかけ合ってアフタートーク♪



ネリーズほっこりエピソード

街で見かけた、嬉しかった、笑顔・幸せになれた、これもネリーズかな?

中里郷土の森で、ホタルの観察会に行ってきました。しばし優雅な気分になりました。ボランティアの方々のホタルへのやさしさが伝わってきました。(中村北のチャコさん)



久しぶりに3日間高熱がでてしまって会社に行けなくなっていました。そんな私を会社の人は心配して、会社の事は気にしないで大丈夫と言ってくれたのが嬉しかったです。(練馬区のネリーズさん)



帰宅ラッシュの駅のホーム。

電車から降りて改札に向かう大勢の人の中、大きなリュックを背負い、あたりを不安そうにキョロキョロ見渡す小学校低学年くらいの男の子。(声をかけようか?)と見守っていたところ、5メートルくらい離れた場所から「〇〇ちゃん、〇〇ちゃん、こっちよ」とお母さんと思しき人の声。その声に男の子は気づく。低い目線から、人混みの中のお母さんを確認できたようだ。男の子は、ほっとした顔をお母さんに向け、そして駆け寄った。良かったと胸をなでおろした。(練馬の隣さん)



◆お問合せ◆

社会福祉法人 練馬区社会福祉協議会
〒176-0012
練馬区豊玉北 5-14-6 新練馬ビル 5 階

<https://www.neri-shakyo.com/>
E-mail/info@neri-shakyo.com
TEL 03-3992-5600
FAX 03-3994-1224



人と人のつながりから笑顔が広がっている様子に「ほっこり」をいただきました!(^^)!
たくさんの投稿をありがとうございます。スペースの関係でいただいたすべてのエピソードが掲載できず申し訳ありません。今回も FAX 用紙を同封しております。皆様からの投稿をお待ちしております!!メールでも受け付けています☒